

北海道の水産業の学習における新聞活用

～新聞の一覧性を重視した取り組み～

北海道公立中学校教頭

1 はじめに

社会科の授業において、身近な社会事象を教材化することは、生徒の興味・関心を引き出すばかりでなく、授業と実社会のつながりを生徒に感じさせる有効な手段である。そうした意味で、新聞は有用なツールとなる。本実践案は、そうしたことを意識して作成したものである。

2 授業実践例

(1) 単元名

第2部 日本のさまざまな地域

3章 日本の諸地域

7節 北海道地方

- ④ 外国とのかかわりの歴史によって
変化した漁業

(2) 学習課題

「北海道の漁業と外国とのかかわりを考えよう」

(3) 授業の流れ

- ①『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）p.254「③北海道でとれる水産物の種類の変化」のグラフから、各魚種の割合の増減について1970年と2009年を比較させる。

- ②割合の増減の理由を教科書本文を参考に考えさせる。

例) ほたて (32.2%増)

・養殖や栽培漁業の成果

さけ・ます類 (9.9%増)

・孵化事業などの成果

すけとうだら (23.5%減)

・排他的経済水域設定の影響

この作業から、北海道の漁業と養殖、栽培漁業、排他的経済水域の関係をつかませる。

- ③教科書p.254「④北海道のおもな水産物」から漁獲量の多い市町村を調べさせる。

1位 釧路 2位 根室 3位 稚内

この作業から、漁獲量の多い港が、道東に多いことをつかませる。

- ④新聞記事（北海道新聞2015年5月1日 朝刊9面）を配付する。（次ページ資料参照）

ア A・Bの見出しとCのリードから北洋サケ・マス漁が、ロシアの規制により窮地におちいつている状況を読み取らせる。

イ Dの図から、問題となっている海域がオホーツク海とベーリング海にあることを確認させる。

ウ Eの記事を教師が範読し、経済への影響が具体的に書かれている部分にアンダーラインを引かせる。

例) ・根室の経済が受ける影響は200億円規模

・サケ・マス漁は、漁船員の通年雇用のためにもなくてはならない

・年収の40%前後を失うことになる

エ 範読後、道東経済への影響をふまえながら自分の考えをまとめさせる。

- ⑤自分たちの考えを発表、交流させる。

3 新聞活用の効果と課題

(1) 効果

北海道は広いため、内陸部に住む生徒にとって水産業はなじみの薄い学習内容であるが、新聞記事をとおして北海道の水産業が抱える喫緊の問題について認識を深めることができる。

(2) 授業での活用について

新聞の特徴の一つに「一覧性」がある。生徒は紙面から、瞬時に多くの情報を得ることができる。その際注目するのは、見出しと図や写真である。さらにリードは端的に記事の

内容をまとめてある。本実践案でも、それらに着目させた。また、教師の範読は読み取りが苦手な生徒のことを考慮している。記事を読ませることだけが新聞活用ではない。生徒の実態に応じて、新聞記事を上手に利用したいものである。

(3) 課題

新聞記事を教材化するにあたって、普段から記事のスクラップをしておくことや電子版での記事検索をお勧めする。特に後者においては、掲載期日さえわかれば、実際の記事を図書館で調べることができる。